

令和 8 年第 4 回定例会一般質問通告事項

中 西 海 斗 議 員（ 木 曜 会 ）		質問方式：一問一答方式
9 月 2 日	1 人口減少時代における持続可能な都市経営について 本市では、約 50 年にわたり人口減少が続いており、近年は年間 2,000 人を超えるなど、その減少スピードはさらに加速している。 人口減少そのものを止めることは現実的に難しいとしても、そのスピードを少しでも緩やかにし、将来の人口規模に合わせて都市機能や公共施設等を再構築していくための「時間」を確保することが、本市の持続可能性を考える上で重要であると考えている。 そこで、人口が 10 万人程度となることが予測される 2040 年頃を一つの基準年として、本市の将来の人口と財政について考えたい。 2040 年頃には、生産年齢人口の減少による税収基盤への影響に加え、公共施設や上下水道などのインフラ更新、新市民病院が整備された場合の償還負担、クリーンセンターの更新など、大型の財政需要も想定される。 こうした問題意識から、今回、本市の予算・決算、財政運営見通し、公共施設等総合管理計画などをもとに、一定の前提を置いて 2040 年頃の財政を独自に試算した。 その結果、現在と比較して年間約 32 億円から 40 億円程度の財政圧力が生じる可能性があるとの試算となった。 この試算は将来の財政を正確に示すものではないが、将来の人口と財政を一定の前提のもとで数字として捉え、その認識を行政と議会が共有した上で、今後の都市経営を議論していくことが必要であると考えている。 そこで、以下について市長の見解を伺う (1) 今回示した年間約 32 億円から 40 億円程度の財政圧力の試算について、その前提や規模感も含め、市当局としてどのように評価するか (2) 人口 10 万人程度となる 2040 年頃を一つの基準年として、市税、地方交付税、義務的経費、公共施設・インフラの維持・更新費をどの程度と予測しているか。また、現在と同程度の行政サービスを維持すると仮定した場合、一般財源ベースで年間どの程度の財政余力、あるいは財源不足が生じると見込んでいるか (3) 2040 年頃の具体的な予測値を示すことが困難な場合、本市としてどのような財政リスクや課題を想定しているか	

9 月 2 日	(4) 2040 年の人口と財政状況を見据え、人口減少のスピードを少しでも緩やかにし、まちを再構築していくための「時間」を確保するために、今後何に重点的に取り組むべきと考えているか。 また、現在進めている各種施策は、人口減少のスピードを緩やかにし、本市の持続可能性を高めることにどのようにつながっていると考えているか (5) 人口減少時代において、本市が守り、さらに伸ばしていくべき尾道の魅力や価値をどのように捉えているか。 また、限られた財源の中で、何を守り、何を見直し、どの分野へ重点的に投資していくべきと考えているか (6) 新市民病院をはじめとする今後の大型公共投資も含め、2040 年から逆算した本市の都市経営をどのように考えているか
-------------------------------------	---